

特集

輝く先輩方からのメッセージ



プロフィール
1994年卒。青山学院大学国際政治経済学部国際政治学科卒業。大学在学時にラグビー日本代表に選出される。ケンブリッジ大学社会学部修士課程修了。博士(医学)。サラセンズ(英)、コロミエ(仏)、7人制日本代表の選手兼コーチなどを経て、2012年より日本代表GM。2016年より日本ラグビーフットボール協会理事。現在、男女7人制日本代表総監督。

日本ラグビーフットボール協会専務理事

岩渕 健輔 さん

私は青学初等部からラグビー部。高等部でもラグビー部に所属し、現在はラグビー協会の理事、ワールドカップの組織委員会の理事などを務めています。

高等部時代に思いを馳せると、やはり部活動のことが思い出されます。ラグビー部の顧問の先生は生徒の主体性を尊重してくれ、人格形成につながるような指導をしてくれました。また土日にはOBの指導者が来てくれて練習を。強豪校と比べてグラウンドも狭く練習時間も限られている中で、どうやって効率を上げ、強くなるのかということに常に考えていました。結果、二年生の時は東京都大会で準決勝まで、三年では決勝まで進むことができました。

青学はまさに“新時代”。新たな世界で活躍できる大人に

ラグビーには、“One for All”という言葉があります。「一人はみんなの為に」という意味ですが、例えばラグビーは試合でトライを決めてもガッツポーズをしてはいけません。そこに至るまでに多くの仲間が体を張ってくれたおかげでその結果があったのであり、決して自分だけの成果ではないという考えがそこにあるからです。

青学の雰囲気もその“One for All”に近いと言えます。様々な生徒がいますが、一人ひとりに何かの役割がある。青学のスクールモットーに神と人にとり仕え社会に貢献する「地の塩、世の光」という言葉がありますが、まさにこれが表すとおり、人のことを考え、困っている人を助ける環境があります。そこで出逢った仲間とは今

もよく会っており、さらには仕事関係でも助け合っています。

青学では生涯の友人が見つかります。校風も柔軟でいろんな色にも染まれます。多様性があり自由があり、でも芯がなければいけない世界。これから入学される皆さんが高校を卒業される頃には、高三で成人を迎える時代となり、世の中はそんな“青学のような世界”に変わっているのではないかと。そんな新時代も恐れる必要はなし。高等部での生活をしっかりと体験していれば、新たな時代でも活躍できる大人になっているはずだからです。小さくまとまらず、ちょっと怒られるぐらい自由に(笑)、青春を謳歌してください。

やりたいことを見つけ、それを追求することができる環境

2011年にフジテレビへ入社し、現在は報道番組「FNN Live News a」、「Mr.サンデー」のキャスターを務めています。

青山学院には毎日の礼拝があり、聖書の中の「隣人を自分のように愛しなさい」という言葉は、当時も今も心に響いている教えます。私たちアナウンサーは、自分の言葉で何百万人の方に、今起きているニュースや国内外の様々な情報をお伝えするという立場です。責任が伴う仕事であり、自分の言葉が社会的な影響力を持つことで、誰かを傷つけてしまう可能性も…。ですが「隣人愛」の精神を胸に、ニュースの当事者がどう思うか、視聴者がどう思うか、多くの人の気持ちに寄り添って伝えることで、「あの言葉で

救われた」とお手紙を頂いたり、過去には、街なかで「ありがとう」と直接声をかけて頂くこともありました。アナウンサーの仕事に完成形はなく、反省することも多いのですが、今後も心の琴線に触れる言葉で、一人でも多くの方を前向きにできたら嬉しいです。

実は高等部に入学当時、私はさまざまな不安を抱えていました。いよいよ将来についても考え始めるべき時、何を目標とすればいいのか、大学はどんな道に進むべきかなど、手探りの状態に。そのような時期に、毎日の礼拝で穏やかに自分を見つめ直す時を持つことができたことは大きなことでした。二年生からは選択授業が増え、私は英語に興味を持ちました。そして交換留学生制度でアメ

フジテレビアナウンサー

三田 友梨佳 さん

リカへ一年間留学。復学し、下の学年の子たちと授業を共にしましたが、彼らは温かく私を迎え入れてくれましたし、同時に元々の同級生も私のことを忘れず頻りに連絡をくれました。キリスト教の教えを受けた中で共に育ってきた友人たちは心の優しい人ばかりで、今も大切な仲間ですし、ここで育ったことは私にとっての誇りです。

高校時代に私は新たな分野を学ぶ楽しさを覚え、学校が終わってからも近所の図書館に行って勉強をしていたほど。私がそうだったように、高等部では自分のやりたいことがきっと見つかるはず。追求できる環境も整っているので恐れず挑戦し、是非楽しんで三年間を過ごしてください。



プロフィール
2007年卒。高等部在学時に、米国シアトルに1年間交換留学。青山学院大学国際政治経済学部国際経済学科卒業。2011年フジテレビ入社。「めざましテレビ」や「直撃LIVEグッディ！」のキャスターを経て、2019年4月から報道番組「FNN Live News a」、「Mr.サンデー」のキャスターを務める。



プロフィール
2000年卒。東京外国語大学ロシア・東欧課程ポーランド語専攻卒業後、同大学院国際協力専攻修了。独立行政法人国際協力機構(JICA)勤務。2012年から2015年までセルビア共和国にあるバルカン事務所へ赴任。現在はJICA東京にて外国政府から派遣される研修員受入事業を担当し、国づくりの骨幹となる人づくりの一翼を担っている。

JICA東京 経済基盤開発・環境課 主任調査役

伊藤 隆一 さん

私が青山学院高等部に入ろうと思ったきっかけは、帰国子女枠があったことと自由な校風であったことでした。私はポーランドに住んでおり、帰国後、公立の中学に通いましたが、高等部の帰国子女枠は要件が幅広くオープンだったことが大きな理由でした。

入学して感じたのは、帰国生や外部生、また初等部から通っている生徒が分け隔てなくミックスされる環境があったことでした。生徒の多様性が認められており、皆が自然に溶け込むことができる校風でした。

そのような環境の下で出逢った友人たちも私の宝物です。テニス部で苦楽をともにした仲間やクラスメイトたちとは未だに連絡をとり、

海外であれどこにしようかと交友関係が続いています。また思い出されるのが文化祭です。私のクラスはもぐらたたきとパイ投げを企画したのですが、その準備段階で私が骨折してしまったのです。そんな私にクラスメイトたちは、動けなくても出来る役割を与えてくれ、一緒に達成感を味わうことができました。クラスや部活動で、周りを巻き込んで物事を動かすことや、皆の意見を尊重してまとめあげることを経験したことは、現在の仕事にも活かしています。

私に将来の道筋を示してくれたのも高等部でした。そもそも帰国子女だったこともあり、私は日本を背負って海外へ行けるような仕事に就きたいと思っていました。高等部では自身で関心を持った授業を選択で

高等部で芽生えた夢を実現。オープンで多様性のある校風

きるため、国際政治や英語、フランス語などの勉強をしました。高等部には大学の先生のようなスペシャリストが多く、一人一人の関心に合わせて、将来役立たい部分を伸ばす授業を受けることができます。ネイティブの先生による英語の授業で、パソコンを使ってオフィシャルな表現や文書の書き方を学んだことは、今でも大いに役立っています。

そして私は現在 JICA で研修員受入に携わっています。外国の行政官を中心に、双方向で学ぶことで知識の共創を図り、その国の国づくりに貢献しています。高等部で学んでいなければ今の私はいなかったかもしれません。ぜひオープンでやりたいことを実現させてくれる青山学院高等部で大空に羽ばたいてください。